

## 宇都宮市立今泉小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
目標(めあて・ねらい)の共有化とふり返る時間の確保	児童が意欲をもって授業に取り組めるような学習課題を設定していく。また、児童が課題を受け止め、見通しをもって学習に取り組み、授業の終わりには自らの学習をふり返る時間を確保できるようにする。	「授業の中で、目標がしめされている」の設問に4・5年生ともに8割～9割以上が肯定的回答をしていた。ただ学年間に差があり、今後も継続して、目標の共有化に努めていく必要がある。「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」に対しても、学年間に差が見られることから、めあてからまとめ・ふり返りまで、児童が見通しをもって授業に臨むことができるように工夫していく。
コミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫	授業の中で多様な形態で、自分の考えと友達の考えとを向かい合い、対話できるような場面を設定していく。また対話を通して学び合い、自分の思いや考えを表現できるように児童を育成していく。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。」の設問に肯定的に回答した児童の割合は4・5年生ともに、県・市の平均より低い。しかし、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」と回答した児童の割合は、4・5年生ともに95%を超え、県や市の平均より高かった。今後、自分の意見に自信をもって発表することができるように支援していく。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4年生の平日の学習時間で「1時間以上」と回答した児童の割合が県や市の平均より低く、5年生の平日の読書時間で「30分以上」と回答した児童の割合が県や市の平均より低かった。その反面、4・5年生の「1日あたりのテレビなどの視聴時間」では、ともに「2時間以上」と回答した児童の割合が県や市の平均よりも高く、またスマートフォンの所持率も4・5年生ともに県や市の平均より10ポイント以上高かった。	家庭の過ごし方において宿題等、児童が主体的に学習に取り組めるような内容や分量などを工夫していく。また、学校だけでなく家庭での読書を推進していく。	各学年に合わせた「家庭学習の手引き」を活用したり、学年だよりや学級・学年懇談等を活用し、家庭での過ごし方、家庭学習や読書について継続して呼び掛けていく。また、テレビ視聴・スマートフォンの使い方等についても、継続して家庭に啓発していく。